



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

地理情報システム(GIS)を活用した地域課題の解決

今井 修 (いまい おさむ)

有限会社 ジー・リサーチ 代表取締役



○ 登録者情報

所在地

東京都板橋区

略歴

- 1995年 国土空間データ基盤(NSDIPA)設立, 事務局長
- 2003年 国土空間データ基盤推進協議会が国土交通大臣賞受賞
- 2004年 NSDIPAを退職し, 有限会社ジー・リサーチ設立(～現在に至る)
- 2003年 東京大学空間情報科学研究センター客員教授
- 2005年 東京大学空間情報科学研究センター特任教授
- 2012年 東京大学空間情報科学研究センター退職, 同研究センター客員研究員(～現在に至る)
- 2012年 島根県中山間地域研究センター客員研究員(～現在に至る)
- 2012年 NPO中山間地域フォーラム運営委員(～現在に至る)

著書・論文等

- 2013年 今井修, 日本における参加型GISの展開, 日本地理学会
2012年 今井修, 島根県飯南町谷自治振興会におけるGISを活用した地域づくり手法の研究, 日本地理学会
2011年 今井修他, 全国自治体ウェブサイトにおける公開地図サービスの実態把握に向けたサイトリスト作成, GIS-理論と応用
2009年 市民参加型GIS, コミュニケーションとGIS, 「シリーズGIS」第3巻生活文化のためのGIS第6章, 朝倉書店
2009年 GISの計画・設計, 導入と運用, 「シリーズGIS」第2巻GISの技術第9章, 朝倉書店
2007年 GISと市民参加(監修, および第7章) 古今書院

○ 地理情報システム(GIS)を活用した地域課題の解決

取組の内容

1995年 国土空間データ基盤(NSDIPA)設立以降, 政府全体の地理情報システム(GIS)の取り組みを加速させるため, 各府省の委員会, 研究会に参加し, 広くGISが活用できる環境作りの活動を行ってきました。特に, 1997年からは, 総務省(当時自治省)の統合型GISに関する研究会に参加し, 指針作りを支援してきました。

また, 2002年からは, 国土交通省で推進されてきた, GIS活用に向けた, GIS利用定着化事業, 2008年からは自治体向けGIS活用人材育成の事業に講師として参加し, プログラムを支援してきました。

最近では全国地域情報化推進協会(APPLIC)技術部会のGIS-WGに参加し, 技術支援を行なっています一方, 都道府県においても, 岐阜県, 三重県, 島根県における統合型GIS環境構築のための委員会, 研究会に参加し, その構築を支援してきました。

地域での活動としては, 2010年より豊島区朋有小学校において子どもの交通安全をテーマとした取り組みに, 地図, GISを活用して, 地域の危険度が可視化し, その対策の検討を実施しました。

2011年より, 島根県中山間地域研究センターとともに, 島根県飯南町谷地区において, 地元をベースに地図を利用した地域づくりに着手し, 同年地域資源マップを作成, 秋に, 地域資源を活かしたカントリーウオークを実施しました。

また, 石川県七尾市能登島でも, 地域資源発見ワークショップを開始し, 島内の集落を順次行なっています。

2012年より, NPO中山間地域フォーラムの運営委員に加わり, 中山間地域における課題に関する検討を行なっています。

実績

総務省統合型GISに関する活動: 指針に合わせ, 普及セミナー等の講師として参加し, 現在大半の都道府県, 約30%の市町村に導入されています。

国土交通省国土政策局によるGIS利用定着化事業: 2002年から2005年までの3年間実施した内容を, 2007年「GISと市民参加」として古今書院より出版(監修及び一部執筆)しました。

国土交通省国土政策局によるGIS活用人材育成プログラム: 2008年より2012年まで自治体向け講習会を毎年2,3回実施し, 毎回30人程度参加, そのテキストをサイトから公開し, 自治体におけるGIS活用を支援しています。

豊島区朋有小学校: PTAによる地域の交通安全危険度マップを作成し, その後子どもの集団登校の様子をデジカメやGPSで記録し, その結果を全校生徒(600名), PTA参加の場で発表し, 全校の交通安全意識の向上に役立てています。

島根県飯南町谷地区: 地域の高齢者に参加して頂き, 地域資源マップを作成し, そのマップに基づき, 20名程度の参加するカントリーウオークを実施し, 地元, 参加者に満足したものとなりました。

工夫した点や苦労した点

GISはIT技術を使うため、ハードルとなりますが、その場合は、紙地図を利用することで、そのハードルを下げることに工夫しました。一方、災害時などに、写真などの情報を正確な場所に結びつけて地図上に表示することは大変でしたが、最近のGPS機能を利用したデジカメ、携帯電話やスマートフォンを利用することで、非常に簡単に実現できます。紙地図とIT技術をうまく組み合わせる工夫で、若い人から高齢者で参加できるワークショップを実現します。地域課題の解決に地図を使って話し合いを行う場合、その課題をボードゲームの形に設計し、話し合いに使います。これは、地域の人の考えていることをゲームの中で表現でき、皆の相互理解を深めることができます。

ひとことPR

地図は見るだけでなく、地域の人と外とを繋ぐコミュニケーションの道具であり、地域の資源が可視化し、地域を点検することができる道具です。紙の地図の使い方を拡張したものが、GISであり、GISを利用することで、既存の統計情報や地図情報を活用することができます。また、GISは情報発信を容易する道具にもなります。GIS活用はこれからの地域づくりに必須の道具です。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

| | | | | | |
|---|---|--------------|---|----|-------------------|
| | 1 | 地域経営改革 | | 7 | まちなか再生 |
| | 2 | 地場産品発掘・ブランド化 | | 8 | 若者自立支援 |
| | 3 | 少子化対策 | ○ | 9 | 安心・安全なまちづくり |
| | 4 | 企業立地促進 | ○ | 10 | 環境保全 |
| | 5 | 定住促進 | ○ | 11 | その他(GISを活用した情報発信) |
| ○ | 6 | 観光振興・交流 | | | |

関連ホームページ

| | |
|--------------|---|
| Facebook 今井修 | https://www.facebook.com/oimai1 |
|--------------|---|

連絡先

| | | | |
|---------|----------------------------|-----|--|
| メールアドレス | osam.imai[アットマーク]gmail.com | その他 | |
|---------|----------------------------|-----|--|

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。